

(2) 根拠となる資料 ②学校関係者評価

領域	短期経営目標	具体的方策	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた次年度の方策等	
健全な心と体の育成	・心の教育の推進	・基本的な生活習慣「春日小のやくそく」を確立させる。	・授業中は静かで集中しています。		
		・あいさつができるようにする。	・「ぶきやまにあいさつしなくてはいけません」 ・学校に行くときほとんどの子どもたちが挨拶してくれるので、とてもよい雰囲気だと感じます。 ・校内では、あいさつを返してくれる児童が多くて、こちらも気持ちよいです。 ・中学、高校、社会人と「あいさつ」は重要なので、今後もお願いします。 ・通学路でこちらが挨拶すると返してくれる子が多いです。とてもよいこと	○継続してあいさつ指導を実施していく。	
		・「特別の教科 道徳」の授業を充実させる。	・親切な子が多く、困っている子には声をかける雰囲気を感じられてとてもよいと感じます。 ・来年度は外部にも公開されることを望みます。	○道徳だけに限らず、学校公開の機会を検討していく。	
		・児童アンケート、児童個人面談を実施して、児童の実態把握に努め、【いじめ】【不登校】【体罰】がないようにする。	・泣いている子によく話を聞いている先生を見かけます。大切なことだと思います。 ・不登校の子に対しても、来られた時には分け隔てなく接することができる子どもたちだと感じています。 ・ひろばスタッフとして活動中に「友達や「いやだ」と言っていることは、してはいけないんだよ」と大人に向かってしっかりと言えている場面がありました。 ・アンケートだけに頼らず、ふだんの児童たちの様子にも目配りしていただきたいと思います。	○担任だけに限らず、子どもたちと接する教職員全体で、気になる様子や児童の情報共有し、アンケートなども活用しながら、総合的に児童の実態把握や対応に努めていく。	
		・体育科授業を改善・充実させる。	・コロナ禍を経験したことにより、健康な体づくりや衛生モラル、食生活や正しい生活リズムの大切さを今まで以上に伝え、病気に負けない体をつくることを学習してほしいと思います。	○体育(保健学習)など心身の健康につなげられるような指導を心がけていく。	
	・体力向上	・新体力テストの結果を生かし、体力の向上を図る。	・高学年になると外に出ない子が多いため(特に冬は)、声かけて外で遊ばせてほしいです。 ・マスクをはずして、外遊びをたくさんし、体力の向上を目指してほしいと思います。 ・芝生が一年中立ち入り禁止にならずに、遊べるようになると、ずいぶん体力面でも違うのではないかと感じています。		
		・休み時間、外で元気に遊ぶ習慣を定着させる。	・規則正しい生活習慣が身に付いており、良く寝て良く食べることができていて良いと思います。		
		・学校安全計画に基づき、危険なことや事故から自分を守る力を育てる。危険なことや事故から自分を守る力を育てる。	・自転車教室なども実施していただき、子どもたちが自分たちで気をつけるようになってきていると感じます。 ・先日、学童とひろば合同の避難訓練がありました。「地震です」とのことと同時にみんな机の下に入って、日頃の訓練ができていたと感じました。 ・自転車運転時のヘルメット着用していない小学生をみかけるので、安全の再確認を。 ・SNSに関して、保護者が子どもを管理することも必要。	○学校および教員が細かく指示を出さなくても、自分自身で考え行動できるよう、定期的な訓練なども計画的に実施していく。SNSについては、情報モラル講習会等を活用し、保護者とも連携しながら、指導を行っていく。	
		・配慮を要する児童の実態を把握し、一人一人の教育ニーズに応じた指導を行う。	・もったくさん補助の先生がいても良いのではないかと感じています。 ・ひろばでも、一人一人の日常や、個人差によって、児童の様子が変わるので、適切に対応できるように努めています。 ・一人一人のニーズに応じるのは難しいのではないのでしょうか。保護者の要望などもあると思いますが、適切な支援機関に早期につなげることも大切だと思います。	○公的に配置される人員については制限があるため、必要に応じてボランティアなどを募集・活用しながら、適切に対応していく。また、保護者とも連携を密にこたううえで、外部の関係機関とも連絡・相談をしてよりよい対応を行っていく。	
		・給食指導等で、よい食習慣を身に付け、食の大切さを理解させる。	・リクエスト給食などもあり、食べることに積極的で興味をもっている子が多く、嬉しそうです。 ・養護教諭や栄養士の先生とも連携して推進していただきたい。	○日々の給食などをきっかけに、食について考えていくことができるよう、各担任と養護教諭・栄養士なども協力して指導を行っていく。	
・オリンピック・パラリンピック教育の推進	・東京オリンピックも終わり、アンケートする必要のない項目ではないでしょうか。目標にすべきことは他にありません。 ・オリンピック・パラリンピック選手の出前授業などどんどん推進してほしい。	○本校は2020レガシーとして、アスリートによる指導や障害者理解を継続している。機会があれば様々なゲストによる指導や講演等企画していく。			
確かな学力の定着と向上	・計画に基づいた指導	・「週ごとの指導計画」に指導のねらい、指導内容等を明記して、計画的に工夫した指導を行う。	・授業がわかりやすいようです。先生方が工夫して下さっているのどと感じます。		
		・1単位時間の授業時間をしっかりと確保し、授業時数を確保する。			
	・基礎的・基本的な学習内容の定着	・算数科で習熟度別学習(3～6年)、TT体制(1・2年)を行い授業の充実を図る。	・ひろばに来た子は、まず宿題をすませてから遊ぶように自然となっています。自分の力でしっかり考えている子は、だんだん力がついているようです。		
		・朝学習「春日タイム」や長期休業中の「学力補充教室」などを活用して個に応じた指導の充実を図る。	・他校では、放課後に希望の子に勉強させる事業が始まっています。春日でも検討してみたらどうか。 ・漢字ドリルなどは、ていねいに書けば上手なので「丁寧に書いてね！上手だね！」とほめると美しい字になっています。	○基礎基本が定着できるような様々な方法を検討していき、少しずつでも実践していく。	
	・探究的な学習活動の実施	・総合的な学習の時間や生活科で探究的な学習を実施する。	・成果物を掲示でよく見かけます。楽しく勉強している様子うかがえます。 ・授業で学ぶこと以外にも、いろいろな事に興味をもち、調べてみようと言うようになってきていると感じます。	○学習の成果を発表したり、みんなに見てもらったりすることで、さらなる意欲につなげられるような機会をつくっていく。	
		・学習習慣の確立	・学習の基礎となる「規律ある学習習慣」(「授業中のやくそく」)を確立する。	・クラスは落ち着いているように感じます。発言もしっかりしています。	
	・研究・研修の充実	・自己申告時の授業を公開する。			
		・小中一貫教育のために9年間を見通して各学年の基礎・基本の力を身に付けさせる。			
	・ICT機器の活用	・ICT機器を有効に活用し、効果的に学べる授業を展開する。	・ICTは大切ですが、人の温かさ、直接のふれあい、会話の大切さも失わないでほしいです。 ・クラス担任がそれぞれ対応するのは大変だと思います。どのように活用するのか、統括して行う方を外部から導入するのはいかがでしょうか。 ・タブレットの正しい使い方について、ご家庭でも定期的に確認していただきたい。	○ICTを使うこと自体を目的とせず、様々な活動において、効果的にICT機器を活用できるようメリハリをつけながら指導していく。正しい使い方については、学校だよりや保護者会などにおいても、定期的に情報発信や共通理解を行っていく。	
		・保護者・地域の力を生かした教育活動の推進	・学習に保護者や地域、外部の人材を活用し、学習内容の充実を図る。	・今年は40周年があったので、地域のパワーを感じた。保護者アンケートにあったように、PTAもそうだが、どこにも協力したくない人がいるが、その人に意見にだけひっぱられず、地域コミュニティとしての人材活用は大切だと思う。 ・ICTの活用も含めて、地域と連携できればとても良い取組だと思っています。 ・昔の遊びでけん玉名人やコマ名人、お手玉名人が来校して教えてくれたらしく、ひろばでも1年生が挑戦して遊ぶようになってきました。 ・外部の方の出前授業を参観する機会をまたつづけていただきたいと思います。	○保護者や地域の方々を支えられ、無事に開校40周年を行うことができ、新たな春日小の歴史の1ページとなった。今後も、この関係のよさを生かしながら、よりよい教育活動を継続していきけるよう努めていく。